

「先生、ぼく仕事できるんだよ」

－生きる力を育てる生活単元学習・現場実習・交流学习を通じたH生の成長から－

○自尊感情の育成

○共生意識の育成

養護学校高等部

1 題材設定の趣旨

知的障害のあるH生が、楽しい学級作りをすること、作業や現場実習の体験を積みこくと、高校生と交流をすることを通して、自分に自信を持ち、仲間と共に歩んでいこうとする気持ちを持つ。

2 H生の様子と期待できる姿

H生は、明るく活発な高等部1年生である。性格は優しく、困っている人や悲しんでいる人に心を寄せることができる。また、物事が自分の考えた通りにいかないときには、短気を起こすことがある。方法を理解すると根気良く活動に取り組むことができるが、慣れてくると丁寧さを欠いたり楽な方法を考えることもある。そういうH生に次のことを期待したい。

- (1) 新しい場面や自分なりに判断できる場面で人の気持ちを考えながら自分の行動を決定し、それを実践し、認められることで自信を持つことができる姿
- (2) 取り組む活動のイメージや見通しを持ち仕事をこつこつ行う姿
- (3) 自分の思いを相手に伝えながら、仲間意識を持つ姿

3 H生のねらい

学級での活動や現場実習、そして高校生との交流の活動の中で、自分の思いを相手に伝え、気持ちをつなげ合ったり、相手の思いを感じたりすることによって、共に生きていこうとする気持ちになる。また、確実に自分のできる活動を増やす事を通し、自分に自信を持つ。

4 活動への願いと学習の流れ

(1) 活動への願い

A：学級作りのための活動

H生の所属する学級は、様々な障害のある生徒が在籍しているが、個性豊かでエネルギーに満ちたクラスである。4月当初、一人一人に居場所があり、落ち着いて生活が送れるようにすることを中心に指導を進めようと考えた。生徒達の様子を見ると、自分なりに考えを持つことはできるが、それをうまく表現できない生徒や、「そんな事したくねえ」などと友達の流れや気持ちに心を傾けることができにくい生徒が見られた。生徒全員にとって、楽しく価値のある学級活動を、自分たちの手で進めることを通して、仲間に慣れ、仲間の性格や良さを知り、安心して生活できるように願った。

中学部の卒業生で学校のことをよく知っているH生には、友だちと早く慣れ、クラスを引っ張って欲しいと願った。

B：自立に向けて

高等部の生徒たちは、3年間で社会（会社への就労・作業所への就労等）へ出る事となる。そのため、日常生活や作業学習を通して望ましい生活習慣の育成や働くための

意欲・態度の形成を図っている。個々の生徒についてできるようになった内容の確認をしたり、足りない面をはっきりさせ今後の指導に役立てる意味で現場実習を行っている。H生にはキノコを製造する会社で、仕事の面白さと大変さを体験し、将来に向けた生活作りに生かしてほしいと願った。



C：高校生との交流

同年代の多くの子どもたちと触れ合う中で、ありのままに接することや、一つのことを協力して行う共同活動を通して心と心がふれあうことの大切さを感じ、人として自然体で生きていく力を育てたいと願った。

(2) 活動の流れ

A：学級作りでの活動 B：現場実習での活動 C：高校生との交流活動〈人権の視点〉

月	場	主な活動	H生の様子と活動内容	H生の評価
4	A	○クラス作り ・クラス長決め ・誕生会の提案	新しい仲間でクラス長を決める H:自分から立候補してクラス長となる 誕生会をしようと提案する	新しいクラスで自分の考えが出せるか
	B	○作業班体験	自分のやりたい作業種の選択 H:縫製班でミシンがしたい	自分にあった作業種の選択
5	A	○1回目の誕生会	1回目の誕生会の実施 H:自分の提案が通り満足する	誕生会への思いがあるか
	B	○作業学習開始	仕事内容や手順を覚える 〈自尊感情〉 H:仕事をミシンの直線縫いとする	作業意欲が持続するか
	C	○第1回交流会 ・一年間の交流の内容を知る	お互いの緊張をほぐすために自己紹介やペアゲームを行う 〈相手意識〉 H:受け身だがゲームや話ができる	楽しく関わられたか
6	B	○春の現場実習	仕事とはどんなことなのか先輩の姿を見学する 〈就労への意欲〉 H:先輩の表情から本気でと考える	自分と重ねて見学できたか
	C	○第2回交流会	高校生と花苗を植える共同作業をする H:高校へ行って一緒に作業ができる	共同の体験に意欲的であったか
7	A	○2回目の誕生会 (一学期まとめの会)	学校やクラスの友だちに慣れお互いに認め合い考えを出し合う H:誕生会の会場装飾にと紙の鎖を作る	誕生会に意欲を持って望んだか
	B	○第1回作業販売	郵便局で作った製品を販売する H:お客さんに販売する 〈自尊感情〉	責任を持って作業に取組めたか
9	B	○作業班での製品作り	お客さんのことを考えて作業をする H:一つ一つを丁寧に作業する 〈責任〉	使う人を考えて作っているか
	C	○第3回交流会	高校へ行きボランティアクラブの生徒と栗拾いをする 〈共生の意識〉 H:高校生と協力し合って活動する	高校生と一緒に活動を心がけているか

10	B	○第2回作業販売 (学校祭にて)	学校祭で製品販売をする <自尊感情> H:声を出して客に呼びかけ販売する	お客の声に耳を傾けられたか
	C	○第4回交流会	春に植えたサツマイモの収穫。焼き芋会とゲームをする <共生の意識>	自分から関わろうとしたか
12	A	○3回目の誕生日会 ・クラスの友だちのことを考え合う ・誕生日会について話し合う (二学期まとめの会)	・ちょっかいを出す仲間のK生について話し合う ・誕生日会をしたくないというT生についてみんなで話し合う H:仲間のK生やT生のことを真剣に考え自分が折れてもみんなと一緒に活動しようと考えた <相手の立場に立つ>	K生やT生の気持ちに立とうとしたか
	B	○秋の現場実習	3週間会社で実習を行う 仕事の仕方 <人との接し方> H:キノコの会社でキャップはめを時間いっぱい取り組んだ H:会社の人への挨拶、報告、休憩等次第になれてきた	自分の仕事を根気よくやり通したか 会社の人との関わりが持てたか
2	B	○第3回作業販売	学習発表会で製品を売る H:意欲的に声掛けし販売をする	自信を持って販売できたか
	C	○第5回交流会	スキー交流、一年間のまとめをする H:高校生と一緒にスキーが楽しめた H:交流して楽しかった。もっと交流したいと発表する <自尊感情>	高校生と助け合いながらスキーを楽しんだか
3	A	○第4回誕生日会 (一年まとめの会)	クラス長として頑張った H生の誕生を祝う。一年間お互いに頑張ったことを認め合う <感謝・見返し> H:自分の誕生日会を心待ちにする。今まで作った紙鎖を教室に飾って誕生日会とまとめの会をしたいと考える	クラスの仲間としてお互いを認め合い安心して生活できるようになったか

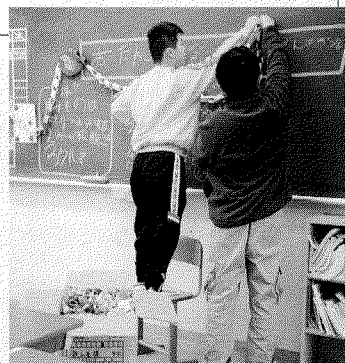
5 実践事例

(1) 自尊感情を高めていったH生の姿 ※支援のポイント

「お誕生日会のあれ作っているんだ」
(1学期お誕生日会から2学期まとめの会準備をする場面で)

活動A - 7月

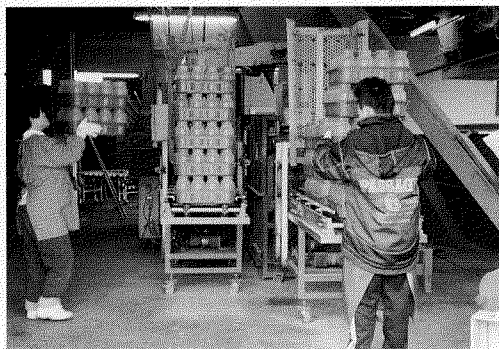
7月のお誕生日会では、装飾の紙鎖が少したりなかった。そこでH生は「沢山作っておこう。」と休み時間や家で紙鎖作りに自分から取り組んだ。休み時間に熱心に取組んでいるH生に聞くと「ほら今度のお誕生日会のときのあれ作ってるんだ。」という。クラスのために紙鎖を作っているH生はニコニコと笑顔で答えた。次第に、紙鎖作りがH生の楽しみに変わっていった。
※皆のために何かしようとする気持ちを受けとめ認めていく。



「先生、ぼく仕事できるんだ」(秋の現場実習で)

活動B-1 1月

当初、H生の仕事はえのきだけのキャップ交換と掃除と考ていたが、仕事をしている様子から、木くずを瓶詰めする機械に空の瓶を入れる仕事も加えようと考えた。H生は「自分のする仕事じゃないから出来そうもない」と腰が引けている様子であったが、具体的にやり方を指示すると「自分にも出来る」と考え、機械の動きにあわせて空き瓶を入れることができた。会社の人は、他の仕事で大変忙しかつたので「この仕事をH生にしてもらえてありがたい」と話してくれた。それを聞いてH生は、「自分も仕事が出来たんだ」とうれしく思い、「先生、ぼく仕事できるんだ」と自信を持って話してきた。



※会社で責任のある仕事をするこつことや自分のした仕事に対して会社の人が評価する場面を経験したい。

「いっしょにスキーができてうれしかったです」(スキー交流会で) 活動C-2月

H生は、緩斜面をボーゲンでゆっくり滑り降りてくることができる。また、リフトにも乗ることができる。第5回目のスキー交流では、高校生とグループになり一緒に滑ることができた。緊張せず、スキー仲間として行動する事ができ満足した様子であった。最後の感想発表の場面では、自分から手をあげて「今日は、高校の人たちと一緒にスキーができてうれしかったです。ありがとうございました」とお礼を言った。

また、高校生との交流のことを振り返って聞くと、「高校の女の子と一緒にスキーができて、ありがたい気持ち。おねえちゃんたちが可愛いと思いました」と答え、相手の優しさを感じ感謝の気持ちを持ったり、自分に自信を持ったりして交流できた。

※H生自身も十分に滑ることのできるスキーを通した交流で同年代の人たちと対等に活動できる場面で、自信を持って関わる体験をしたい。

(2) 共生の意識が育ちはじめたH生の姿

「おねえちゃんたちはかわいいな」(第1回交流会の場面) 活動C-6月、10月

第1回交流会では、初めて会うということで緊張し、自己紹介にもかたさがあった。高校生と手をつないでゲームをする中で、次第に緊張が解けてきたが、一緒に手をつないだ相手の名前を覚えることは難しかった。第2回交流会「花の苗植え」第3回交流会「焼き芋会」は、共同活動をいっしょに行う中で次第にいつもの自分が出せるようになってきた。

※自然な形で共同活動ができるような場の設定をする。



「キャップの交換は任せてくれ」(現場実習の場面で)

B活動-1 2月

①春の現場実習では、頑張ろうとする気持が強いH生であったが、午前中仕事をするこつと昼食の後は疲れて寝てしまうことがあった。秋の実習では、座つたままの仕事に変えたこ